

園長先生の子育てひろば

令和7年11月

子どものまなざし

園長 堀田 あけみ

梶山幼稚園には園バスがありません。保護者さんに送り迎えをしていただきます。毎日、教員がご家族とお会いすることで、家庭と園が連絡をしっかりと取り合います。同時に、毎日、一緒に歩いたり、自転車の前後になったりすることで、同じ景色を見て、同じ風を感じ、同じ香りを楽しむ（季節柄、金木犀を連想して書いていますが、嫌な匂いもあるかもしれませんね）時間を確保するのは、幼児期における愛着の形成に効果的です。理論的にもそうですが、私は実際に3人の子どもを連れての通園を経験していますので、実感もしています。

子どもの姿を見ていると、どうしても相手を見ているかどうかが気になります。例えば、挨拶をするときにも相手の目を見て、と教えますよね。ただ、視線を合わせるのが苦手はお子さんもおられますので、強く要求しすぎたり、他の子と較べたりすることは控えていただけたらと思います。コミュニケーション能力の発達上、大切なことでもあります。でも、忘れられがちなのが同じものを見る視線です。誰かと視線を共有することで得られる一体感は、親子の間でぜひ体験してほしい感覚でもあるのです。

二つの視点から考えていきましょう。

同じ対象を共有することで、そこからコミュニケーションが生まれます。綺麗だね、楽しいね、なんだろう、不思議だね。そんなポジティブな感情から、怖いね、嫌だよね、というネガティブな感情まであるかと思います。もしかしたら、親子で異なる感情を持つこともあるかもしれません。燃えるような夕焼けは、見た目にも美しいし、明日が晴天である予兆でもあるので、一般的にはポジティブに受け止められますが、「怖い」と感じる子どももいるようです。大人でも、そう感じることもあるかもしれません。

対象ではなく、見る側から考えてみます。私は学者としては心理学が専門で、子どもの認知、特に言語発達を研究しています。子どもの視点は大人とは違います。低いのと、視野も狭いです。これは経験するための眼鏡も開発されています。視野の広がりとはともかく、高さについては大人が屈めば経験できます。子ども達が小さかった頃、私はいつも、子どもの視線を確認していました。ベビーカーから見る世界は、大人の足や腰に囲まれて、驚くほど強い圧にさらされています。その一方で、スーパーに行ったりすると、目の前に商品が。欲しくなっちゃう気持ちもわかります。ケーキ屋さんで、ベビーカーの上の娘がとても興奮してぴよぴよと腰を浮かしたことがあります。視線を共有してみたら、視界のすべてがケーキでした。まだ、一度か二度しかケーキを食べたことがなかった頃なのに、本当に美味しかったんでしょう。

視線の先は、大層なものじゃなくて良いんです。風に揺れる葉っぱでも、ふよふよと飛んでいる虫でも。並んで同じものを見て、感情を共有する時間をお勧めします。